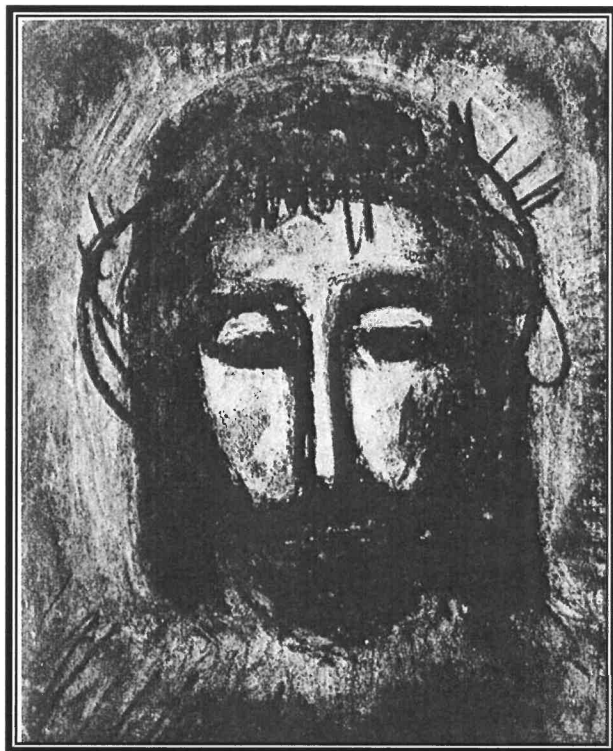


2007年(平成19) 7月

カルメル
霊性センターニュース



ルオー《キリスト》

223号

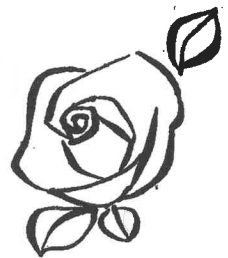
カルメル山の聖母への感謝の歌

- 1 私の生涯の初めの頃に
あなたは私を腕に抱いて下さいました
あの日からずっと 懐かしい母よ
あなたはこの世で私を護って下さいました
私の無垢を保つため
やわらかい巢に私を置き
私の子供時代を守って下さいました
祝福された囲いの陰で

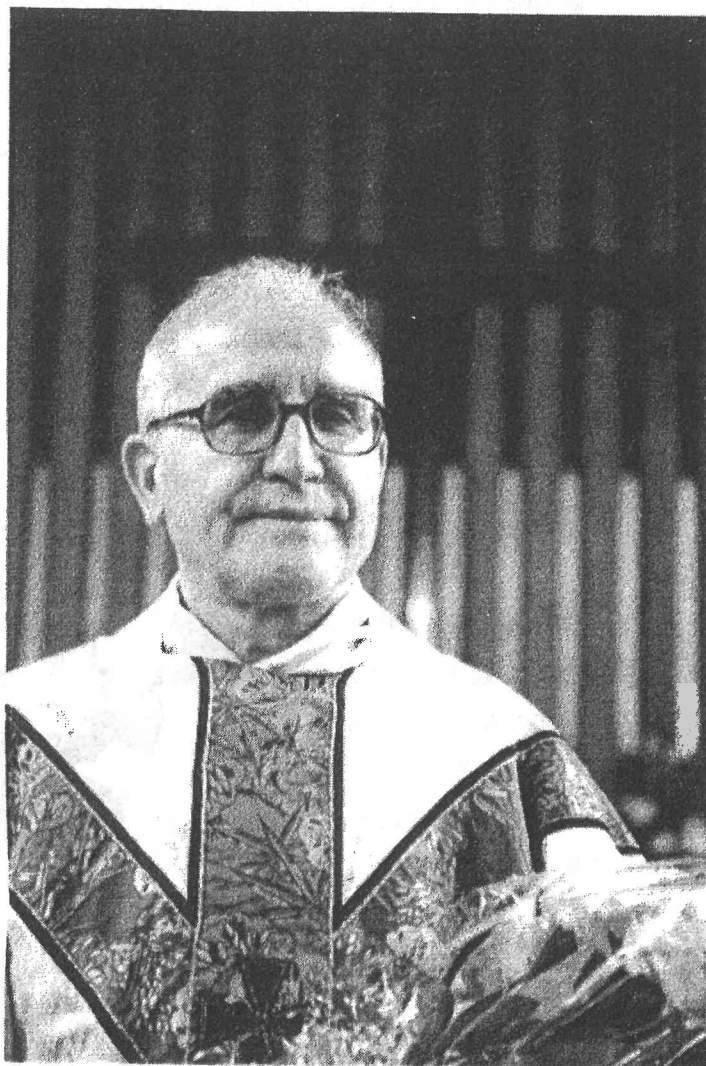
- 2 後 私の青春の日々に
私は聞いた イエズスの招きを！……
言い表わし難い優しい愛をもって
あなたはカルメルを示して下さいました
「いらっしゃい わが子よ 寛大でおありなさい」
とあなたは優しく おっしゃいました
「私の側であなたは幸せになるでしょう
救い主のために己を屠りにいらっしゃい」と
……

- 3 あなたのお側で おゝ 私の優しい御母よ！
私は心の安らぎを見つけました
この世で私は もう何もいません
イエズスだけが私の幸せのすべて
時には 悲しみを感ずるとしても
恐れが私を襲って来るとしても
どんな時にも 私の弱さを支えて
御母よ 私を祝福して下さい

- 4 私の神である天配イエズスに
忠実である恵みを下さい
いつか 彼の優しい声が私を呼んで下さるように
選ばれた人々のなかに 飛びゆくようにと
その時 もう鳥流しは終わり 苦しみも絶えます
私はあなたに繰り返します 天国で
私の感謝の歌を
カルメルの愛する女王よ！



カルメル会総長ルイスアロステギ師来日



カルメル会総長、ルイスアロステギ師が、6月9日に来日し26日まで、日本各地のカルメル会修道院を公式訪問されました。東京カルメル在俗者会、上野毛教会の信徒の皆さんとも記念ミサを行いました。

創立時から援助支援してくださっている

ヴァチカン市国・行政庁長官ラヨーロ大司教様 **思いがけない** 来日！

お迎えできたカルメル姉妹の喜び。(伊達カルメル会)



ラヨーロ大司教様が若き司祭だった 30 数年前、「日本の一番貧しい修道院を助けたい」。この思いが伊達カルメル会との交流の始まりだそうです。北海道でも豪雪地帯の月形に創設した当時の出来事で、姉妹たちの励みと希望になりました。修道院の老朽化に伴い、25 年前、現在の伊達市に修道院は移り、現在に至っております。今も、大司教様はご援助を、姉妹方は祈りでの交流が続いているそうです。

そんな時、北海道創立 45 周年をお迎えしますので、お祈り下さいとご連絡申し上げたところ、大司教様は、「是非行きたい」とおっしゃって下さり、来日が実現しました。交流は長いですが、お会いするのは相互とも初めてですので、喜びもひとしおと思われま

す。参列なさった方々は皆深く感動なさったようです。

限りある紙幅で全部は書ききれませんが、特筆すべきことは、記念祝典や大司教様をお迎えする準備を、旧知の人、恩人、近隣の人、信徒の人、また見知らぬ人までが一致して協力してくださったそうです。改めて神様の限りない祝福を感じることができたそうです。最後に、ミサのしおりに載っている感謝の言葉の一部を転記させていただきます。(文責 原 ocd)



思い返せば、今日までの歩みの一こま一こまは、このように、全く神の恵みと憐れみの奇跡でした。ここには語り尽くすことのできない神の計り知れない恵みと多くの方々のお祈りとご協力に支えられて、創立から今日に至ることができたことを皆様に深く深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました！皆様の上に神の豊かな祝福と恵が絶えることがありませんようにと、私たちはこの歴史を語り継ぎながら、心をこめて祈り続けて参ります。

2007 年 5 月 12 日

伊達カルメル会 イエズスの聖テレジア修道院

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd
——現代の十字架の聖ヨハネ——
帰天40周年にあたって (7)



聖霊について話すとき
わたしの心は
すぐに燃えあがってしまう

わたしは
聖霊を
わたしの友と呼んでいる

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

マリー・エウジェンヌ師はよくこの言葉を口にしていました。確かに講話、説教で聖霊について話すとき、それは神学的考察というより聖霊との親密な関わりからのメッセージであるとすぐにわかります。そしてその親しい関わりに人々を導きたいとの強い思いをマリー・エウジェンヌ師はもっていました。

確かに、聖霊はわたしたちのうちに住んでおられる。わたしたちの世界の中に住み、ご自分の命を現される。その恵みによって、わたしたち一人ひとりをその生活の中で呼びかけておられる。

どこから来、どこへ吹き抜けていくかわからない霊の息吹・・・その霊と関わるにはどうしたらよいのでしょうか。

わたしたちは自分らしい方法で聖霊を見つけなければならない。なぜなら、聖霊は全く個人的な仕方でもわたしたちのことを考え、わたしたちの名を呼んで愛してくださったのだから。

洗礼の時に一人ひとりに与えられた聖霊を、まず信頼することからこの個人的な関わりが始まり、さらに深まっていきます。洗礼の恵みがいただきっぱなしになっていなかったのでしょうか。マリー・エウジェンヌ師よく「神の子とは神の霊によって導かれる者」(ロマ8・14)であると繰り返していました。

大切なことは、わたしたちに将来を予見させるちっぽけな光によって、自分がよいと思うところに行き、自分が一番よいと思うことを実現させることではない。いな。聖霊が望まれることをし、そのご計画を実現するために、聖霊の考え、聖霊の望みの中に入ろう。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

—現代の十字架の聖ヨハネ—

帰天40周年にあたって (8)



神は 火である！

火に近づき

触れたものが

燃え上がらない

ということがあるだろうか？

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

7月20日は預言者エリヤの祝日となっています。一般にはあまり祝われていませんが、カルメルにおいてとても大切にされています。神のみ前に常にとどまり、神の望みならば神のために戦うエリヤ。

「祈りの人」といわれていたマリー・エウジェンヌ師は、またその行動力でもよく知られていました。師の死後、フランスの『カルメル誌』は特集号で師に関する証言を掲載しました。その中からエリヤの精神を現代に生きていた師の姿をいくつかご紹介しましょう。

「マリー・エウジェンヌ師は祈りの人であり、また活動の人でもありました。活動と観想の難しい統合を実現した人です。」(カルメル会宣教地担当顧問、元ミラノ管区長アウレリオ神父)。この祈りと使徒職の統合は次の証言によって単に頭の中のことで、時間的なことでもないことがよく表現されています。

「師は人に影響を与えずにはおかない確信をもって、祈りがわたしたちを変えてゆく力をもっていることを話され、それは伝染力のある確信でした。内なる力があのようにこもっている講話を決して忘れません。まさに神とのこの忠実なかかわりによって、彼自身変えられて、人々を燃え上がらせて神へ導く火、炎となって行ったのではないのでしょうか。」

「忠実なエリヤの息子マリー・エウジェンヌ師は、<火のように預言者エリヤが登場した。彼の言葉はたいまつのように燃えていた>(シラ 48・11)という旧約聖書の言葉がそのまま当てはまる方でした。エリヤの真の弟子として、彼は真に火のように立ち上がりました。その火からいのち、光、力を得、そして絶え間なく神へ向かっていたのです。彼こそ生ける神の活ける証人でした。」

(G・H ローマ特派員ラ・クロア紙『フランス・カトリック新聞』)

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

断想（215）

奥村一郎

ある人が隠者に尋ねた。

どうしたら人間は救われるか？

おなかがすけば食べ、のどがかわけば飲みなさい。

そして誰のことも悪く考えない。そうすれば救われる。

食べすぎて、飲みすぎて、自分をももて余し、

人を傷つけているのが、今の社会なのだろうか。

“アイマイな日本”と、ノーベル賞の大江さんがいった。

ほんとうにそうだ。社会も学校も政治も教会も・・・

キリストにとっては居すわりの悪いところかな。

風の音がする。

自分を呼んでいるような気がする。

神というのは、こんなに身近なものなのかも。

キリストのまわりをからまわりする、わたしはキリストに

うるさくつきまとう、虫のようかもしれない。

愛の名のもとに、信仰の美名によせて。

燃えよう、燃えつづけよう、それだけだ。

生きていてよかった、この人と出会えたということだけで。

そんなことをいわれるような人になりたい。

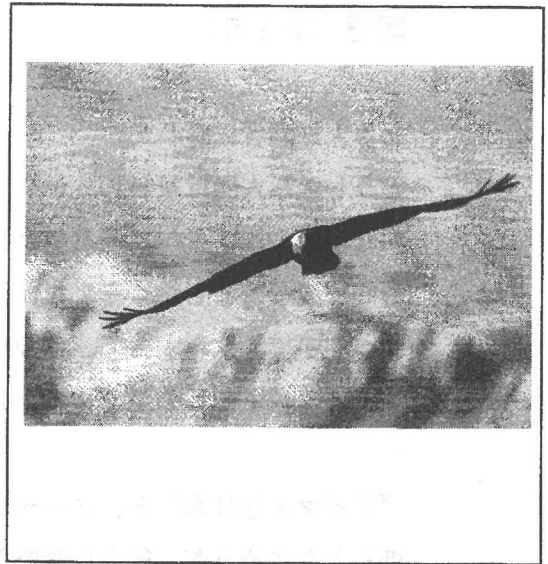
忘れないで下さい、夢を。

忘れなければ、夢はいつか、現実になるのです。

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(101)



イエスの自由

イエスは真に自由でした。彼の自由は、自分が神の愛する子であるとの靈的自覚に基づいていました。彼は、自分が生まれる前から神に属していたこと、神の愛を告げ知らせるために世に遣わされたこと、自分の使命を果たした後は神のもとへ帰ることを、その存在の深みにおいて知っていました。この意識が、この世におもねることなく話したり行なったりする自由を、また人をいやす神の愛によって人々の苦しみにこたえていく力を彼に与えたのです。だからこそ福音はこう言うのです。「群集は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべて人の病気をいやしていたからである」(ルカ6:19)。

(0520)

イエスのあわれみ

イエスはインマヌエルと呼ばれています。それは「神は私たちと共におられる」(マタ1:22-23) という意味です。イエスの人生の大きなパラドックスは、その言葉と行いが人間の非難や賞賛にまったく影響されていないにもかかわらず、彼が他のどんな人間よりも私たちと「共に」おられるということです。

イエスのあわれみ、私たちと共にいるという彼の深い意識は、彼の人生が人間の尊敬によって導かれるのではなく、天の御父の愛によってのみ導かれることにより、可能となっています。実際、イエスは私たちを愛するのに自由です。なぜなら彼は私たちの愛に依存していないからです。

(0521)

くのり
九里 彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(26)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

10. 手を貸すこと (続き)

奉仕活動に参加することはよい考えですが、他者を助けることは、挨拶するのと同じぐらい簡単です。ドアをちょっと押さえておくとか、隣人のペットを世話するとか。もしあなたがより組織化されたヴォランティア活動に関わりたいと思うならば、地元の、それもかつて一度も足を踏み入れなかった場所で働くようにしてください。本当に助けを必要とする人を助けるようにしてください。他者を助けることから受ける感情は、あなたが想像する以上のものなのです。

とても重要なことは、小さくならないことに骨をおらないことです。本当に重要なことを二三ピックアップするようにし、後は流してください。すべての小さなことに刺激されることは、あなたのストレスを増大するだけです。ですから、たくましくなって、ストレスに満ちた状況を作り出さないようにしてください。思い起こしてください。あなたは一人だけではないのです。だれもが生きることにストレスを感じているのです。それらとどうつきあうかは、あなた次第です。なぜならどうすべきかを、あなたは知っているのですから。

反省のための問い

- a) あなたはどのようにしてあなたが関わっている物事との関係を快適なものとしていますか。
- b) あなたはリラックスし、なるがままにしておくことができますか。
- c) あなたは変えられるうる物事を本当に変えようとしていますか。
- d) あなたは物事を変えることができない時、それらがあるがままに受け止める用意がありますか。
- e) 物事を注意深く行なわねばならない時、あなたはどのように自分をとらえていますか。

7. 五つの感覚

「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、
あなたの神、主を愛しなさい。」(申6:4-5)

多くの大きなお祝いでは、人々はビールやワインなど飲み物の杯をかざし、大きな声で「乾杯」と叫びます。この「乾杯」の意味は、何なのでしょう。この言葉の意味を知りたいといつも思っていたので答えを探していたところ、或る時、一人の良きサマリア人に出会いました。それは「乾杯」という言葉の意味をある程度よく説明してくれました。彼によれば、ビールや他の飲み物の入ったグラスを手にする時、私たちはグラスに触れ、グラスの中身を見、その臭いをかぎ、その味を味わいます。けれども耳はそれを飲むことによつていかなる満足も得られません。そこで私たちの聴覚を満足させるために、「乾杯」と言うのだと。あなたも、この言葉の意味について自分なりの解釈をすることができるでしょう。

今日は、あなたの貴重な五つの感覚に注意するように促したいと思います。私たちはしばしば、神が私たちにくださったこれらの贈り物を忘れていきます。私たちはそれらの贈り物を失った人を見ない限り、決してこれらのはかり知れない五つの感覚を意識することはありません。私たちは盲目の人をあわれに思い、聾啞の人を気の毒に思います。また手足を失い、私たちのように動けない多くの人々を目にしています。私たちは考えや思いに気を取られているために、私たちの感覚をしばしば無視しているのです。今日は、これらのページを読み流す前に、すべてを忘れ、リラックスするようにお勧めします。あなたは、あなた自身の心に住まれる神の静かな沈黙の聖所へ入る必要があります。自分自身に時を与えない限り、あなたは自分の内に運んでいる宝に気づくことはないでしょう。

- a) 視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚という五つの感覚体験は、わたしたちにとって貴重なものです。
- b) それぞれの感覚には特別な目的がありますが、それらはみな一緒に働きます。
- c) 五感是我们の周りの世界に関して学び、知識を広げていくことを助けてくれます。
- d) 触覚は、物が固いか柔らかいか、ざらざらしているか滑らかか、液体であるかなどについて教えてくれます。
- e) 視覚は世界について学び、その美しさを見、味わうことを常とします。
- f) 聴覚は声や音楽や自然のすばらしい音を聞くことを助けてくれます。
- g) 舌は食べ物に関わります。舌によって食べ物を味わうことができ、食べることを楽しむことができます。
- h) 鼻によって臭いをかぐことができ、呼吸することができます。私たちのまわりにある良い臭いや悪臭を区別することができます。

(続)

くのり
九里 彰訳

年間第13主日（C）

「鋤に手をかけてから、うしろを顧みる者は、
神の国にふさわしくない」（ルカ9：51～62）

第二次世界大戦中、イギリスの首相サー・ウィンストン・チャーチルは、国民にむかって次ぎのような話をしました。「私は名ばかりの戦争では嬉しくない。私は皆さんの汗と血を望んでいる。私はこれから大変になるであろう戦争に対して勇敢であって欲しい。成功への長い道のりに対して強い心を持って欲しい。どんな指導者も国民に犠牲を求めないで平和と繁栄を約束することは出来ない。」

イエスは私たちに栄光への道を示されますが、それは犠牲を通してのものです。「もし私の弟子になりたいならば、自分を捨て、あなたの十字架をになって私に従いなさい」。弟子は主であるキリストが表すものを表さなければなりません。本日の福音の中に、イエスがどこに行こうともイエスに従って行くと言ってイエスへの忠誠心をいい表した人がいました。その人は自信に満ちていて、自分がイエスに従って行くことが出来るかどうかを決めるための忠誠の誓いのことばに含まれている裏の意味に気づきませんでした。イエスは私たちが彼に従っていきたくどうかを語ります。私たちは危険を犯す覚悟がなければなりませんし、地上の財宝に頼ってはなりません。別のケースでは、イエスはある人を呼びました。その人はついていく覚悟はありましたが、待つて欲しいと頼みました。彼は自分の家族に対する義務を果たしたあとで、イエスに喜んで従って行きました。イエスは、自分に従うということは非常に緊急のことだから、いちばん親しい家族の絆であっても脇に置いておかなければならない、といわれました。私たちの中には、若いときには人生を楽しみ、キリストに従って行くことをしばらくあとにのぼそうと考える人がいます。福音のキャッチフレーズは「今がそのとき」ということです。聖アウグスチヌスは、「なぜ私は今この世の望みに対してノーということが出来ないのだろうか？」と自問したとき、はじめて神を経験しました。聖パウロは、肉の望むところが私たちをとどめる限り、キリストに対する堅い決心をおこなうことが出来ない、なぜなら肉の望むところは霊に反し、神が私たちににおこなうように望んでおられることをおこなうことを妨げる、といわれます。

（Sr. Paulina）

「主は他に七十二人を任命し、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた」(路10,1)

福音の言葉で思い出すことがあります。ずいぶん昔のことですが、一人の女性の息子さんが、ある事件に巻き込まれて殺されました。彼女は、熱心な信仰者と自認していた方でした。最愛の息子さんが殺されたとき、「神様、どうして？ 何故、このようなことが許されたのですか？ あなたの許しなしでは、事件は起こらなかつたはずではありませんか。わたしが不信仰だったのでしょうか。わたしの何か隠れた罪のせいでしょうか」と自問自答し、神に祈り、訴え続けました。しかし、解決は見えてきませんでした。でも、「敵を愛し、あなた方を憎むものに親切にきなさい」(路6,27)。この主イエスのお言葉が、彼女の心を占め、迫ってきたのです。そこで、苦しい胸の内を彼に書いて送りました。怒りや憎しみ、しかし、赦すようにと迫ってくる主イエスの言葉、それでも落ち着くこともできない複雑な気持ちを、赤裸々に書いたのです。それから、殺人者との手紙のやりとりが始まりました。

何年かたって、加害者は、刑期が短縮されて出所してきました。ある一日、母親は彼を自宅に迎え、泊めます。一緒に食事をし、そして、となりの部屋に蒲団を準備してあげます。殺人者と被害者の母というより、息子と母のような懐かしさの中に、二人はいたのです。長く、苦しい道のりでしたが、母親は、この殺人者こそ、自分が真実に福音を生きる者となるために、イエスが行くつもりのところに、前もって送って置いてくださった人ではないかと、思えるようになったと言います。赦せない、憎しみ、恨みの心を手紙ににじませてしまったときもあり、また、イエスの福音のお言葉を生きられない自分の信仰の至らなさを痛感させられたこともありました。その都度、イエスの言葉によって癒され、また、励まされてここまで来たのです。

加害者を、イエスが送ってくださった人ではないかと気付いた、このとき、本当にイエスが自分を訪れてくださっていたと思うのです。ましてや、加害者にとっては、この母親は、文字どおりに、イエスが、「御自分が行くつもりのところに先に遣わされた」人であったのです。

(ルカ 渡辺幹夫)

年間第15主日 (C)

「隣人を自分のように愛しなさい」(ルカ 10:25~37)

ある町を一人のお金持ちがドライブしていました。道路に人だかりがしているので近寄ってみると男の子が車に跳ねられ救急の処置を必要としているとのことでした。人々はお金持ちに病院に運んでくれるように頼みましたが、用事があると言って走り去ってしまいました。夕方お金持ちが家に着いた時、病院からの電話で彼の息子が事故に遭い死んでしまったことを知りました。息子は救急の処置が間に合わず手遅れになってしまったのです。お金持ちの心は彼が犯してしまった間違いのために張り裂けんばかりになりました。あの車に跳ねられていた男の子は彼の息子だったのです。私たちは自分に関わりのない見知らぬ人が苦しんでいる時には大して痛みを感じません。但し苦しんでいる人が私たちの親類や知人である時には、無意識に何とかして助けたいと必死になるものです。

今日の善きサマリア人のたとえ話は私たちのこのような態度に挑み、キリスト者として誰かを助ける時にはどんな区別もすべきではないことを教えています。ユダヤ人にとってユダヤ人でない人を助けるということは前代未聞のことでした。イエスは律法の専門家にどこの国の人であれ助けを必要としている人は誰でも隣人であるという大切なメッセージを理解させたいと思われたのでした。

最も大切な掟は神を愛することと私たちの隣人を愛することです。聖ヨハネは言っています、「神は愛しているが兄弟を憎んでいると言う人がいるならば彼は嘘つきです。というのは自分の目で見ることの出来る隣人を愛せないで、見ることの出来ない神を愛することはできないからです。」 「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのはわたしにしてくれたことである。」(マタイ 25:40) この世の中には孤独で生活に挫折して生きることを意味を探している人たちが大勢います。私たちはこれらの困っている人たちの処に行って同情し時機に合ったアドバイスと愛に充ちた行為によってかれらを励まし助けるように神から選ばれているのです。

(Sr. Paulina)

「必要なことはただ一つだけである。マリアは良いほうを選んだ」(ルカ 10, 42)。

イエスが、マルタとマリアの家に迎え入れられたのは、「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」(ルカ 9, 22) とはじめてご自分の受難と死を予告され、また、ダボル山での変容の時には、モーセ、エリヤと「エルサレムで遂げようとしておられる最期について話し」(ルカ 9, 31)、「天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」(ルカ 9, 51)、この旅の途上で起こったことです。

マルタは、イエスをお迎えして、自分にできる限りの奉仕をして差し上げようと心を遣います。忙しく働きまわるマルタは、妹のマリアの方が、「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」のを見咎めて、「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、なんともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」と、イエスご自身にも非があるかのような苦言を呈したのです。イエスはお答えになりました。「しかし、必要なことは唯一つだけである。マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならない。」

ここで問題となっているのは、一般論としての、祈りと奉仕、観想と活動の優劣、二者択一ではありません。マリアも、もしイエス以外の人のためであったら、また、エルサレムへの旅の途上にある決意を秘めたイエスでなかったら、マルタ以上にもてなしに忙しく立ち働いていたかもしれないのです。ここでの焦点は、人間がイエスにする奉仕ではなく、イエスだけが人間のためにしてくださる奉仕、十字架の死による贖いに、どのような心の構えで向き合うかと言うことではないでしょうか。

マルタは、イエスの受難と十字架がなくても成立する、古くからの人間としての良識、伝統的価値観、善良な人のイメージの延長線で生きようとし、他方で、マリアは、人間の知恵では把握しきれないイエスの秘儀、受難と十字架により贖われることから始まる新しい生き方に踏み出して行こうとしているのです。「必要なことは唯一つだけである。マリアは良いほうを選んだ」。

(ルカ渡辺幹夫)

年間第17主日 (C)

「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように私たちにも祈りを教えて下さい。」

(ルカ11:1)

今日のルカ福音書は弟子たちがどの様に祈ったらよいか教えてほしいと願ったとき、イエスが“主の祈り”を教えてくださいと告げています。“主の祈り”の単純さは、当時のユダヤ教や古代ギリシャローマの祈りに用いられているくどい陳述とは著しく異なっています。その簡潔さにもかかわらずテルトリアヌスは“主の祈り”を“真に全福音書の要約である”と言っています。その祈りに関して私たちは人間として望むことの出来る全てのことを願うだけでなく正しい順序をもって願うべきです。(カトリック教会のカテキズム 2763)

私たちは嘆願の初めに日ごとの糧を願います。子供たちが両親の許に行くように私たちは日々主の許にいきます。荒野でイスラエル人がマンナで養われたことや、空の鳥を思い出します。これらは聖餐式のご聖体を日々拝領したいという願いです。次にイエスは私たちの罪の赦しを願いなさいと言われます。イエスの時代の大きな賜物は赦しです。神は人の罪を赦し、人との新たな交わりを創り、人が神の現存のうちに生きる時を与えてくださいました。私たち人間同士の赦しは私たちに差し出された神の偉大な賜物である赦しをどれだけ深く受け入れてきたかを表しています。

イエスはその教えの結論として“願えば与えられ、探せば見つけ、叩けば開かれるであろう”と言われます。これは聖霊を願う祈りと関わりがあります。”天の父は聖霊を願う人にどれほど豊かに聖霊をお与えになることか“といわれています。願うこと、探すこと、叩くことは神の知識、理解、知恵と関わりがあります。これら全ては辛抱強く信仰を生きる中で霊魂が聖化されるのに必要です。あなたが願ったことが突然与えられる確証はないにしても根気強く願い続ければ遅かれ早かれ天の父の恵みはあなたの上に輝きあなたが願ったものは与えられるでしょう。このようにすることが辛抱強く信仰を生きることなのです。”神の恵みがあなたと共にありますように。“

(Sr. Paulina)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

18. 福者十字架上のイエスのマリア (1846-1878) — その1

マリアム・パウアルディは1846年、ガリレアのアベリンに生まれた。彼女の一家は、レバノン人でギリシャ・メルキ派のカトリック教徒であった。両親は、彼女をもうける前に、十二人の息子を亡くしたため、ベトレヘムに巡礼して、聖母マリアに子が授かるよう願い、もし女の子であれば、マリアムと名付けることを約束した。マリアムが生まれてから2年後には、男の子も生まれ、ポウロスと名付けられた。しかし、喜びは長くは続かず、両親は二人ともほどなくして亡くなり、マリアムは父方のおじに、ポウロスは母方のおばに引き取られた。マリアムは幼い頃から、苦行と謙遜に心をひかれ、果樹園やぶどう園にいることを好み、特に神のことを考えながら過ごした。正規の教育は受けなかったが、聖母マリアに対する深い信心を持っていた。彼女の生涯は、聖体に対する深い渴望に特徴づけられる。その望みのため、許可を得る前に初聖体を受けてしまい、その瞬間、彼女はイエスがこの上なく美しい幼子の姿でご自分自身を彼女にお与えになるのを見たのである。13歳のとき、叔父の一人と婚約させられたが、結婚式の前夜、心の中で「すべては過ぎ去る！ もしあなたが、自分の心を私に与えることを望むなら、わたしはいつもあなたとともにとどまるであろう」という声を聞いた。その声に応えて貞潔を守る意思を示すため、長いお下げ髪を切り落とし、奴隷扱いされるようになった。ある日、彼女は一家の友人であるイスラム教徒を介して、弟に手紙を送る決意をしたが、その人物は彼女にイスラム教徒に改宗することを要求した。彼女が拒むと、三日月鎌で彼女ののどを深く切りつけ、血の海の中に彼女を取り残したまま去ってしまったが、聖母マリアが現れて看護してくださり、そのおかげで健康を回復したのであった。

1870年、ポーのカルメル会に入会する。その修道生活全体に、超自然的恵みが目立っている。1873年から1874年にかけて、8度、恍惚状態で空中に引き上げられた。聖痕も受け、それは強く甘美な芳香を放っていた。心臓は貫かれ、ご出現や、実際に実現した預言を度々受けている。マリアムは神秘的知識を有し、同時に二箇所にいることさえあった。また詩の才能にも恵まれ、それは彼女が学校教育を受けていないことを考えれば驚くべきものである。福者マリアはインドのマンガロールにも赴いたが、その後ポーに戻る。この「小さなアラブ人」は、ベトレヘムの修道院を創立し、1878年に亡くなった。



福者十字架上のイエスのマリア

— 祈り —

私は、母であり聖である教会の娘です。

どれほど私は教会のために私の血を捧げたいと望んでいることでしょうか！

私は、教会のため、教会の一致、教会の勝利のためにすべてを捧げます

私を何にたとえたらよいでしょうか。

巣にいる小鳥に。

もし父や母が小鳥たちに食べ物を持ってこなければ、飢え死にしてしまいます。

私の靈魂も、主よ、あなたがいらっしゃらなければ、同じことになるのです。

栄養がなければ生きていくことはできません！

私を何にたとえたらよいでしょうか。

地に撒かれる小さな麦の粒に。もし、露が降りなければ、もし太陽が温めてくれなければ、粒は朽ちてしまいます。でも、あなたが、ご自身の露と太陽を注いでくださるなら、小さな粒は活力を取り戻し、元気になるでしょう。根を張って、美しい植物に成長して、たくさんの実をもたらすことでしょうか。

私を何にたとえたらよいでしょうか。

一輪のバラに。それは切り取られ、手の中でひからび、香りを失ってしまいます。でも、もしバラの茂みにとどまるなら、いつも生き生きとして美しく、すべての香りを保つのです。

主よ、あなたのうちにとどまらせてください。あなたの命を与えていただくために。

主よ、あなたを何にたとえたらよいでしょうか。

ひなを養う鳩に。小さな赤ん坊を養い育てる優しい母に。

イエスがエルサレムの通りで十字架を担っておられるとき、私は彼と一つになります。

私の神よ、あなたは祝されますように。

オリーブの園のイエスの声に、私は自分の声を合わせます。

私の神よ、あなたは祝されますように。

ユダに裏切られたイエスの苦しみに、私は自分の苦しみを合わせます。

私の神よ、あなたは祝されますように。

十字架の重みにつぶされて倒れるイエスに、私は自分自身を合わせます。

私の神よ、あなたは祝されますように。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(I 列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(茶亭カルメル会訳・編)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(5)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

悪魔のロベルト (2)

「恐れなくてください。聴罪司祭は、聖人になればなるほど、やさしくなり、他人の罪にますます驚かなくなるものです。私は聖人ではありませんが、なぜそうなるのかを申し上げます」。ロベルト（訳注：男性名だが女性）は、ほっと胸をなでおろし、その生き方を変えました。そして後に、十字架のヨハネ修士の最大の崇拜者であったエンカルナシオン修道院の修道女に、最初の告解の時、「十字架のヨハネ修士は、彼のもとにたどりつき、彼に告解するまで耐え忍んだ恐怖と困難以上の償いを、彼女に与えなかった」と語っています。

ライオンが絵に描かれるほど獰猛ではないように、ロベルトの悪魔も思ったほど悪くはなかったのです。

^{かえる}蛙 (1)

かつてベアス・デ・セグーラに、1575年に聖テレサによって創立された跣足女子カルメル会の修道院がありました。この修道院はまだ存在しますが。

この修道院には菜園があり、その菜園の中に池やいかだがありました。

この修道院には、十字架のカタリーナと呼ばれたとても純真な修道女がいました。彼女は1579年から1580年の間、またその後も修道院の料理係でした。

池の中やそのまわりには、たくさんの蛙がいました。この両生類は、いつも同じでした。天に届くまで力いっぱいゲロゲロ鳴いて一生を過ごします。いつも蚊と不器用に戦っています。すでに昔の人がこう言っています。「蚊は蛙に言った。『あんたは水をたくさん飲むから、そんなにひどい声で歌ってるんだ。わたしのように赤いワインを飲べば、もっときれいに歌えるよ』」。歌を下手に歌い、その歌を守るために絶えず戦うだけでなく、人が想像する中でももっとも臆病な生き物です。私の話しているアンダルシアの蛙は、どの時代のどこにでもいる蛙と同じです。ほんとうに人の良い単純なカタリーナ姉妹さえこわがるほど、臆病なのです。

(続)

スペイン紀行（2007年）

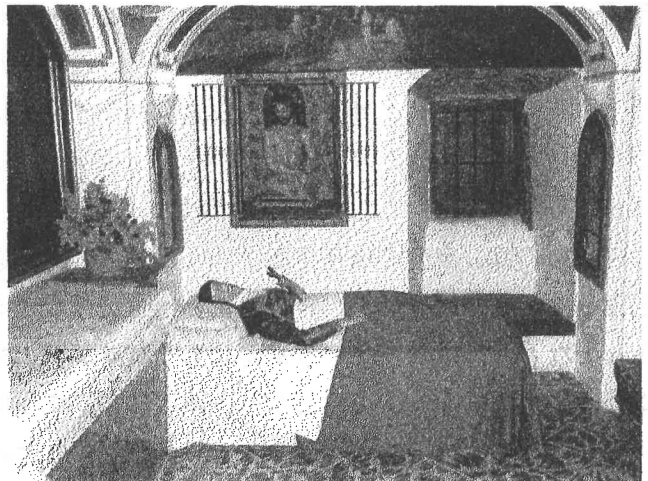
（アルバ・デ・トルメス）

スペインの首都、マドリッドの西、路線バスで約2時間走ったところに学生の町、サラマンカという町がある。サラマンカにトルメス川が流れているが、この上流に、ローカルバスで30分走ったところに、アルバ・デ・トルメスという小さな町がある。サラマンカは常に学生の多い町であり、中世からの古い町なので、観光客が多い。それに対して、アルバ・デ・トルメスは、ローカルな町なので、人ごみがない静かな町だ。ただ、カトリック教会にとって、大切な巡礼地になっている。それは、この町に16世紀のカルメル会修道女、アヴィラの聖テレジアが眠っているからだ。

アルバ・デ・トルメスに聖テレジアのバジリカがあり、その聖堂の中央祭壇の後ろに、テレジアの棺が安置されている。そして、このバジリカにつながって、今でも観想カルメル修道女たちが母テレジアの遺志を継いで、祈りを捧げている。このバジリカの横には、もう一つの教会があり、そこに男子の跣足カルメル修道者たちが住んでいる。この教会は、世界で始めて十字架の聖ヨハネを保護者としてもった教会だそうだ。

1515年3月28日に、マドリッドとサラマンカの間地点にある、アヴィラで生まれたテレジアの生涯は、このアルバ・デ・トルメスで閉じた。このアルバ・デ・トルメスの創立も彼女が行っている。この創立は1571年1月25日である。彼女自身の執筆にもそう記されている（創立史20章）。その後、主の僕として働き続け、最後にアルバ・デ・トルメスへと足を向ける。9月20日にアルバ・デ・トルメスに到着し、10月4日、午後9時に《教会の娘》として、息を引き取った。享年67歳であった。その次の日は、10月15日と日付が変わった。それは、当時の教皇グレゴリウス13世の命により、ユリウス暦からグレゴリオ暦に変わったからだ。その影響も受け、現在のテレジアの祝日が10月15日になっている。

（松田浩一 OCD）



浦島太郎には ならない

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

「浦島太郎」と言えば、日本人でこの話を知らない人はないと思います。そこに登場するのは、まず海岸で子供にいじめられているカメ、そしてそこを通りかかった太郎で、彼はカメを可哀想に思い、子供たちを優しく説得して助けてやりました。カメは、太郎のこの優しさに感動し、お礼として自分の背中に乗せて深海の龍宮城に案内しました。そこには、美しく着飾った乙女達が大勢いて、太郎は、歌にあるように大盤振る舞いの歓待を受け、鯛やひらめの舞い踊りを、十分楽しませてもらいました。龍宮とは海神が主催する海底の世界をいい、古代から人間界と交渉深い異郷として知られ、「海神の宮」とも呼ばれていたものなのです。物語りの主人公である太郎は、歓待された挙句に、乙姫様と夫婦の契りを結びましたが、3年も経つと望郷の念に駆られ、両親を慕うあまりにとうとう陸地に戻ってきた というワケです。その時、乙姫様からもらった玉手箱を大事に抱えていたのですが、海中から陸に上がると、固く禁じられていた「玉手箱は絶対開けてはいけない」という約束を全く忘れてしまい、つい開けてしまったのです。その結果がどうだったかは、ここで言わなくても皆さんがお分かりになることでしょう。つまり陸地と海底という、場所、酸素の有無、エネルギーの放射などなど……（大体地上同様に考えては生きていられないのですが、そこがそのお伽噺）今の今に至るまで「当たり前」（常識）と思っていたことは全部覆されて、太郎の経験範囲を超えたことばかりが出てきました。太郎はまるで狐につままれたかのように、呆然としてしまいました。環境の変化、膨大な時間の経過。すべてが推移し大きく変化していたので、太郎は自力でこれらに対応することは出来ませんでした。第一に老齢化して、あの若者として海にもぐれたことなど、夢になってしまっていました。上陸してから、もしかして地上の自然食の味も忘れてしまい、なじめなかったかも知れませんが、酸素が充分過ぎて気持ちよいことで、若い時には考えてもみなかった「居眠り」が出てたまらなくなり、ウトウトしてみたり。地上という安定感のある大地に身を置くと、以前のような勤勉さが弱くなってしまったり、とかとか……「現実」…それは煙と共に遠い空に消えてゆき、懐古だけが身につけてしまったのでは？「浦島太郎」の話の思い出しながら、私の心をよぎったのは、自分の修道生活という世界でした。過去はある視野から見れば確かに大変だったかも知れませんが、自分の世界、身近で起こる事どもを処理し、解決していくことなどなど。でも若さという常時必要な酸素が沢山ありました。若さのいたりで、考えが浅薄なこともあったでしょうが、体力はありました。しかし今、「時の流れ」という玉手箱を開けてみたら、いろいろな妖気が漂ってきたのです。「でも浦島太郎のような年寄りにはなりたくないなあ」それなりの場で、それなりのエネルギーを使って対応し、少なくとも「玉手箱」とかいう不思議な煙は吸いたくないなあ……

日曜日の昼と夜の詩

蛭田幼一

きみには罪がある 恥ずかしくないか と声がいう
なんとか心を整えて やっと弥撒に与れたよ

弥撒のあと カフェで 苦悩する人に会った
小説を読んでいたのだがね 作家の魂が

ぼくの琴線に触れて ハツカのように慰む思いがした
そのあとで

きみは人が躓くつまずのを 冷ややかな眼で見たことはなかったか
きみは自分こそ詩人だと 自惚れはしなかったか

自惚れたつもりはないが 心の底は分からない
人が躓くのを 冷ややかな眼で見たことはありうる

弥撒のまえ ぼく自身が躓いたのに
もうハツカの味を思い出すことができない



いのちの言葉 6月

真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

(ヨハネ16・13)

福音の真理の言葉は、人の心を引き付けます。「私は真理である」¹と言われた御方が、福音の中で語っておられるからです。イエスは私たちに、はかりしれぬ神の神秘を明らかにし、「真理そのものを与える」という、人類に対する神の愛のご計画を示されました。

ただし、真理とは無限の深みを持つ神秘です。そのすべてを理解し、実践するには、どうすればいいのでしょうか。私たちがこのような「重荷」を背負いきれないことを、イエスはご存知でした。だからこそ、御父のもとに行かれる前、弟子たちと共になされた最後の晩餐で、ご自分の「霊」を後で送ることを約束して下さったのです。この霊は、私たちにイエスのみ言葉の意味を説き明かし、具体的に生きるのを助けてくださいます。

真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

イエスに生かされているキリスト者共同体は、すでに真理が何であるかを知っていますが、同時に、霊の確かな導きのもと「満ち満ちた真理」に向かう歩みの途上にある、と言えます。

このように教会の歴史もまた、「イエスとのみ言葉の神秘を、段階を追ってより深く理解してきた歴史」として捉えることができるでしょう。この長い歩みの中で、聖霊は様々な方法（キリスト者の瞑想や学問、聖人たちのカリスマ、教会の教えなど）

を用いて、教会を導いています²。

また聖霊は、キリスト者一人ひとりの心の中にもおられ、ご自分の「声」を聞かせ、語りかけてくださいます。その時々に応じて、私たちに、赦すこと、仕えること、与えること、愛することをアドバイスし、何が良いことで、何が悪いことなのかを分からせてくださいます。毎月、私たちの心に種蒔かれる福音の「いのちの言葉」を思い出させ、生きるようにさせてくださるのも、聖霊の働きです。

真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きることができのでしょうか。私たちに導き、アドバイスして下さる聖霊に心を開き、その「声」に耳を傾けることです。

キアラ・ルービックはこう語っています。

「キリスト者は、聖霊に促されて歩む必要があります。新たなものを生み出す力のある聖霊は、キリスト者の心の中で働き、その人を成聖に招き、神の命にあずかる者とし、復活にまで導いてくださるでしょう。」

この聖霊の「声」が大きくなり、もっとよく分かるようになるために、キアラは、私たちの間で一致を生きるよう勧めています。「私たちの心の中」だけではなく、「復活のキリストにおいて一致する人々の間」にもおられる聖霊の「声」を、私たちは聞

¹ ヨハネ 14・6

² 第二バチカン公会議「神の啓示に関する教義憲章」第8項 参照

くことができるでしょう。

イエスが私たちの間におられるなら、聖霊は、「その声をより完全に聞けるようにしてください。実際、私たちの間におられるイエスは、一人ひとりの中の聖霊の声を、スピーカーのように大きくしてください。」

『聖霊の声を聞くこと』こそ、聖霊を愛し、敬い、聖霊が私たちの心におられるようにする最良の方法だと、私たちはいつも感じてきました。その声は、人生のどんな瞬間にも、私たちを光で照らしてくれます。また、聖霊の声を聞きながら生きる時、私たちは完徳に向かって歩むようになります。欠点が少しずつ消えていき、徳が表に出てくるのです。」³

真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

このみ言葉は、聖三位一体の祝日に朗読されますが、聖霊を呼び求めるよう私たちが招いています。

「聖霊よ、あなたに一つのことだけを願います。ただ神の栄光のために、私たちに神をお与えください。残された人生のいかなる時にも、あなたのためだけに生きる者にしてください。私たちが愛し、伝えたいのは、あなただけです。

神でおられ、純粋な霊でおられる聖霊よ、私たちの人間性が空の杯となって、あなたで満たされますように。

私たちの魂、心、表情、言葉、行い、沈黙を通して、ただ神が現れるようにしてください。生きるにしても死ぬにしても、また死後に誰かが私たちのことを思い出してくれる時にも、神だけが現れますように。私たちがこの地上に残すのは、ただ神という光の帯だけでありますように。この世の美しいものは全て、神に仕えて賛美し、こ

³ キアラ・ルービック「聖霊とフォコラーレ運動」(1989年10月)

⁴ キアラ・ルービック「Scritti spirituali(霊的書き物)1」チッタナーバ社(1991年ローマ) P250

の世のむなししいものは全て、神に場所をゆずり、崩れ去ります。神こそ『すべて』『唯一』『愛そのもの』でおられます。」⁴

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ

(2007.6)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

以前、障害を持つお子さんを抱えるお母さんのお手伝いをしていた時のことです。仕事としてだけでなく、お母さんの苦勞を分かち合いながら、愛をもって支えたいと感じていました。ある日、いつものように車でそのお宅に行こうとした時、前日自宅の庭に植えようと思って買っておいたパンジーの花が目にとまりました。「早く植えないといけないなあ」と思いながら、出かけました。車を少し走らせた時、心の中に「今から会うお母さんに、あの花をプレゼントしたら」という声を感じました。私はすぐに引き返して、花を全部袋につめ、また出かけました。お宅に着いてすぐに「もしよかったら、これお庭にいかがですか?」と言って、花を差し出したところ、そのお母さんは満面の笑みで、「私はパンジーが大好きなんですよ。今日ちょうど買おうと思っていたところでした」と、とても喜んでくださいました。聖霊の声に導かれた経験でした。(長崎市 M)

お知らせ

東京：マリアポリ 夏の集い

どなたでも参加できます

7月13日(金)～16日(月・祝)

山中湖畔 東照館

フォコラーレ:

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

このちいさな群れをどこへ？——セワ・ケンドラの日々 ④ スッカ

(セワ・ケンドラは、ネパール王国ポカラにある知的障害者通所施設。

通称大天使ミヤを中心とする仲間が日本から支援し、現地のスタッフが運営しています)

セワ・ケンドラの責任者、ラム・ナラヤン(霊名ダミアン)さんは先日、ひとつの決断を下した。

彼は、数年前から友人と一緒に「ベビィランド」という子供向けショップに出資し、

財務を担当していた。 シシュピカス・ケンドラを辞めてセワ・ケンドラを始めるにあたり、どこかで生活の糧を得る場を考えてのことだろう。

なにしろ、セワ・ケンドラはどうなるのか、いつまでできるのかも不明な状態。

日本からの援助に頼るのみだから....。

その「ベビィランド」の共同経営を続けるか、手を引くか、彼は最近迷っていた。

共同経営者三人のうち一人が手を引くことになり、今のまま共同経営を続けるには

彼は今まで以上にベビィランドに出勤し、手伝う必要が出てくるのだと言う。

いきおい、セワに割ける時間が減ってしまうことになる。

彼は言う。

「自分が一番やりたいのはセワ・ケンドラのことだ。

でも、ずっと将来まで、日本からの援助があって続けられるかはわからない。

自分には進学してお金のかかる長女、ダウン症の次女がいて、もらい子した長男だってまだ2歳で成長するまでまだまだ時間もお金もかかる。セワだけに絞ってしまうのがとても不安だ」

「どうしたらいいと思いますか？」と聞かれて、スッカは答えられなかった。

家庭をもち、子どもを養い学校に出し、老親をみるということは、理想に生きることを許さない

厳しさがあるころを、彼より年長者で子育ても親の介護も経験したスッカには痛いほどわかるから。

一週間ほどして、彼からメールが来た。

「ベビィランドからは手を引くことにしました。 これからは、セワ・ケンドラー一本に集中します。

私と私の家族のことは神さまにゆだねます」と。

ラム・ナラヤン(ダミアン)さん一家、アムリットさん夫婦、 スナさん、ビシュヌさん一家、
セワ・ケンドラのスタッフの生活がアカナ会にかかっている。

彼らが元気で気持ちよく働いてこそ、
セワに通所してくる知的障害者たちの生活の質の向上が望める。

彼の背水の陣の決心に応えてがんばりたい。

日本の私達も老骨にむち打って働かねば！！ お金を送らねば。
セワが自立してやっていくためのファンド積み立て、神さまが応援して下さいますように。

めざせ！！100ラック！（1700万円！！！！）これが自立の第一歩。

セワ・ケンドラの運営資金を生み出す不動産収入を見込める土地と建物を現地で買いたい。

主よ、み旨ならば……

***** こぼれ話

工事現場の仕事一日で200ルピー(300円強)
セワの件費も、5人合わせて年間で60万円で足りる。

これらを見ても、日本円がどれだけ強くて役立つか
おわかりいただけと思う。

この日本とネパールの格差があるからこそ、日本で働く我々のささやかな送金で
セワ・ケンドラが運営できる。

日本での一度の外出代がビシュヌさんの一ヶ月の給料になるのですから

URL: 「セワ・ケンドラの日々 みんな生まれてきてよかったね！」

<http://sewa.pokhara.jp/>

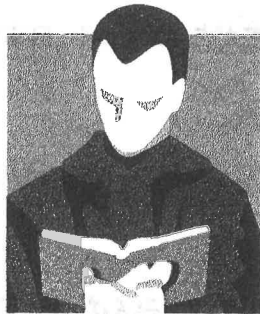
「キリスト教との最初の出会い」②

井戸田 健二

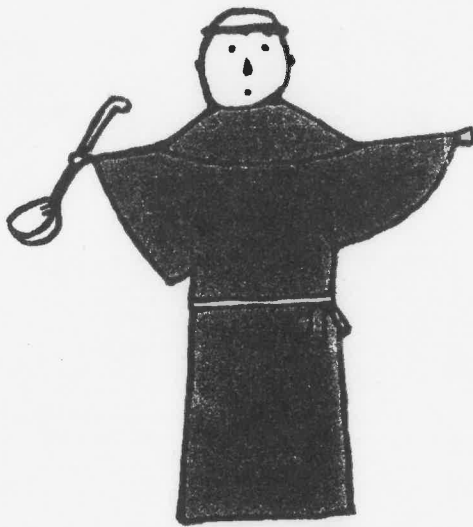
私のカトリック教会との出会いは、母からの幼児洗礼でした。すでに物心がつく以前に教会に行きすでにそこにある十字架に拝み、マリア信仰にも触れてなにがなんだか分からない子でした。幼稚園、小学校と学年が進むにつれて次第に遊び半分の環境から、生活習慣で教会に通うようになりました。そこでいまは亡き徳川神父に出会って、子供心に聖書物語を語り、弱い立場、病に倒れたものたち、いやしいものたちなど弱者の中に入り込んでいく、「立ち向かわれるキリスト像」をあたかもミュージカルの主演俳優を演じられる神父に圧倒されました。この人についていこうと言葉は悪いですが洗脳されたと思います。神父は子供の教育に熱心で、普段の基本的生活習慣を逸脱するとすぐ「雷」を頂戴していた。難しいことではなく神父は「いつも身奇麗でありなさい」といわれました。高い洋服を身に着けるのではなく、清潔で質素で従順でありなさいの教えを繰り返されし言われた。大祝日の前の準備、掃除やバザー、練成会、各種催し物に、それこそ身を削る思いで、細身の神父はエネルギーであり続けました。

その「していただいた数々の思い出」を今反芻してみて、自分には出来ていない未熟さを感じています。お返ししてない状況です。神父の偉大さ、精神性の気高さにいまもって圧倒されています。時代は変わろうと、心のありかた、自分に問いかけて生きていく指針をいつも教会では門を広く開けてます。

少しでも神父に、教会にお返ししていく努力をして、毎日を反省しています。



カルメル会の企画案内



内案画金の会々々々



上野毛靈性センター '07年7月~'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

7月 7日~ 8日 九里彰師

12月15日~16日 九里彰師

08/ 2月23日~24日 九里彰師

一日聖書深読(毎回土曜日午前10時~午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

7月26日(木) 夕食~ 8月 4日(土) 朝 九里彰師

8月21日(火) 夕食~ 30日(木) 朝 福田正範師

12月26日(水) 夕食~08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

7月 5日 子よ、元気を出しなさい 九里彰師

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日10時~16時)

7月20日 カルメルの元后 聖マリア 福田正範師

9月21日 アヴィラの聖テレジアの説く「従順」 九里彰師

10月 5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

11月 2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師

12月 7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師

08/ 2月 8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師

東京

5. 青年黙想会（男女） 九里彰師 神学生
5月 4日（金）17時受付～ 6日（日）16時
11月23日（金）15時受付～24日（土）16時
6. 召命黙想会（男女） 九里彰師
11月 9日（金）20時～11日（日）・・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）
7. 大祭日のミサに与かるために
【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》
【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
08/ 3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。

B【私は神を見たい】・・・祈り

10月26日（金）20時 ～ 28日（日）



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

- * 十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』
 - 7月11日 第二の歌 (21から36まで)
 - 10月3日 第三の歌 (1から18まで)
 - 10月31日 第三の歌 (19から42まで)
- * アヴィラの聖テレジア『創立史』
 - 7月4日 第11章～第13章
 - 7月18日 第14章～第16章
 - 10月17日 第17章～第19章
 - 11月7日 第20章～第22章

どちらも水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 祈りの集い (九里 彰神父)

- 7月20日 「人の子は安息日の主なのである。」
- 10月26日 「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

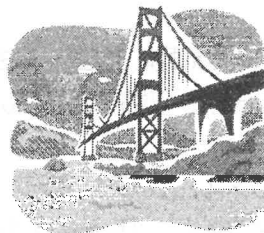
毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

- 7:15～8:15 み言葉と念祷
- 8:15～8:45 分かち合い(参加自由)

D 東西靈性研究クラス (九里 彰神父)

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶクラスです。

- * 原則として毎月第二金曜日(午後7:15～8:45)信徒会館26号室
- * 第4回 7月13日 特別講話「キリスト教と仏教 一神と空一」
- * 発表者: 鶴岡賀雄氏(東京大学教授 宗教学研究室)
- * 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
- * 問い合わせ: 加藤和彦 TEL(03)3418-6816
E-mail tokyo@carmel-monastery.jp
- * 第5回 10月12日 未定



C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

カルメル山の聖母

12世紀の後半から聖地への巡礼者や十字軍に参加した人々が、カルメル山で隠遁生活を始めました。1209年にはエルサレムの総大司教アルベルトにより会則が与えられ、カルメル会が誕生します。聖堂は聖母マリアへ献げられ、1253年の教皇勅書では「カルメル山の聖なるおとめマリアの隠修士の兄弟たち」と呼ばれています。祈りながら、カルメルの靈性の原点を、共に考えましょう。

日 時 : 7月21日(土) 13:30~16:30

対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女

スタッフ : カルメル会士

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

プログラム

13:30~	受付開始
13:45~	始めの祈り
14:00~14:50	講話
15:00~15:45	分かち合い
15:45~16:00	念祷 終わりの祈り
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散



その他

事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAX または E-mail に、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (神学生: 古川)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

(〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-3704-2171)

‘07年7月～’08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

＊ ＊ 宇治聖テレジア修道院 (黙想) ＊ ＊

1. 聖書深読

- ① 一泊二日 (午後5時～午後4時)
- | | |
|------------------------|--------|
| 7月21日 (土) ～ 22日 (日) | 新井延和神父 |
| 9月15日 (土) ～ 16日 (日) | カルメル会士 |
| 11月17日 (土) ～ 18日 (日) | 渡辺幹夫神父 |
| 08/ 3月 8日 (土) ～ 9日 (日) | 新井延和神父 |
- ② ミニ深読 (午後14時～午後16時)
- | | |
|-----------|--------|
| 2月13日 (火) | 深読スタッフ |
|-----------|--------|

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 7月18日 | カルメルの聖母 | カルメロ神父 |
| 9月19日 | エディットシュタイン | 渡辺幹夫神父 |
| 10月17日 | アビラの聖テレジア | アロイジオ神父 |
| 11月14日 | 日常の聖性 | 中川博道神父 |
| 12月12日 | 十字架の聖ヨハネ | 新井延和神父 |
| 08/ 1月16日 | 新しくなる | 渡辺幹夫神父 |
| 2月20日 | 聖書の祈り | 新井延和神父 |
| 3月12日 | 主の受難 | カルメロ神父 |

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

- 08/ 2月9日 (土) ～ 2月10日 (日) カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

- 12月1日 (土) ～ 12月2日 (日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレ-ズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

- 9月30日 (日) ～ 10月1日 (月) 伊従信子 NDV

6. 日曜黙想会 (午前10時～午後4時)

- 10月 7日 渡辺幹夫神父

7. 奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

- | | |
|-------------------------|--------|
| 8月 2日 (木) ～ 8月11日 (土) | 中川博道神父 |
| 8月18日 (土) ～ 8月27日 (月) | 渡辺幹夫神父 |
| 10月20日 (土) ～ 10月29日 (月) | 渡辺幹夫神父 |
| 12月27日 (木) ～ 1月 5日 (土) | カルメロ神父 |

京 都

8.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日） カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、聞いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了 第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父 (上野毛修道院)
了 第2回	2月12日(月) *祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父 (宇治修道院)
了 第3回	3月21日(水) *祝	赦しの秘跡	新井延和神父 (宇治修道院)
了 第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父 (宇治修道院)
了 第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父 (上野毛修道院)
了 第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父 (宇治修道院)
第7回	7月16日(月) *祝	カルメル山の聖母	新井延和神父 (宇治修道院)
第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父 (日比野修道院)
第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.バアトリス (宇治修道院)
第10回	11月23日(金) *祝	病者の塗油	ベルナルド神父 (宇治修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へ1ヶ月前にFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 3 京都（毎回土曜日）

7月14日	P.オハール神父
9月8日	新井延和神父
10月6日	P.オハール神父
11月17日	奥村豊神父
12月8日	新井延和神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

10月6日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父

- * 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 定員21名 申し込みはFAXかハガキでお願いします。
- * コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら1泊2日のコースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキかFAXで、氏名、住所、TELを記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。

講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

① 通信・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」2007年特集号

「今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声」

—現代における信徒の靈性—

- 聖書が語る靈性 一人はなぜ「靈性」を必要とするのか ……雨宮 慧
世に生きる希望の証し ……田畑邦治
旅する教会の途上にて 呼びかけられた覚醒、期される覚生 ……大瀬高司
世に遣わされたキリストの姿 一教会公文書に見る信徒の靈性 ……九里 彰
世を愛された神と共に世に生きる靈性 ……中川博道

雑誌「カルメル」No. 325 (2007年夏号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(6) ……高橋正行
「あなたがたに平和があるように」
—ヨハネ福音書 20 章 19～29 節 ……九里 彰
- * 祈り(14) ……チプリアノ・ボンタッキョ
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (7) ……フェデリコ・ルイス
愛で生きる(5) ……ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(2) 一信徒の生き方を探る ……伊従信子
カルメルの響り(9) ～ひとり海を渡ったおとめ～
OCD 日本創立に向けた具体的な動き II ……大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(17)
—あなたの信仰を信じなさい ……伊従信子
- * オウム真理教元信者の手記を読んで ……谷口正子
愛の断章(4) ……奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号+特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

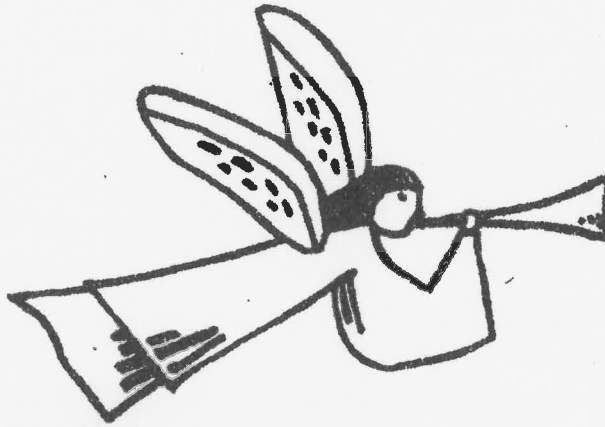
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』（ドン・ボスコ社）

諸所の企画案内



CWC企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

真命山靈性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

フォコラーレ

内案画金の祈禱



画金〇W〇

〇〇〇〇〇〇〇

聖霊降臨祭・父軒一ハ一てヒサ一し

一ヒサヒサ交并體山命真

念艾飯新育焼△ヒサヒサ一

ヒサ・ヒサ・△ヒサヒサ一

ヒサヒサヒサ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2007年

6月12日（火）了

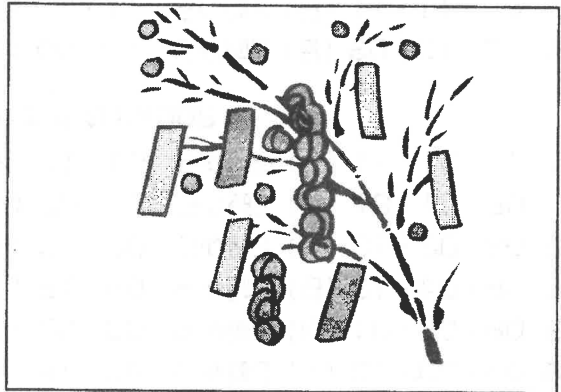
7月10日（火）

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）

8月9日はお休みいたします。



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	了 了 了
K3	07・06・03 (日)	2時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N1	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	
P3	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	07・09・09 (日)	2時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	
N2	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	07・11・11 (日)	2時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

***** 一日内観・ミニ内観のご案内 *****

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

参加費は1万円

了2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖繩・安里修道院・毎月第一水曜日
10時から3時まで・シスター・かな
電話 098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い
聖母訪問会・三浦修道院にて
了4月29日(日)了6月10日(日)

問い合わせ 小倉
FAX 045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 } 秋川神真窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● ~~5月12日(土)13時～13日(日)16時~~ } 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内 Kultourハイム 聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
●通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内 Kultourハイム 聖堂
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス 第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂
- 黙想会 ~~5月19日(土)10時～20日(日)15時~~、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガペ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内 S.J.ハウス 第5会議室
~~4月21日(土)、6月16日(土)~~、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム 聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 6/1 新約聖書の神理解—主なる父 了
- 6/8 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ 了
- 6/15 救い主の役割—人類の待望 了
- 6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ 了
- 6/29 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/20 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/27 イエスの受難—その史実と意図
- 7/28 感謝のミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)
- 8/3, 10 ○休み
- 8/17 イエスの死—その救済的意味
- 8/18-26 ●通う霊操 (18-21時)
- 8/24 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/7 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/14 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/21 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/22-24 ●黙想会
- 9/28 教会の成立と意味—イエスを中心に集う



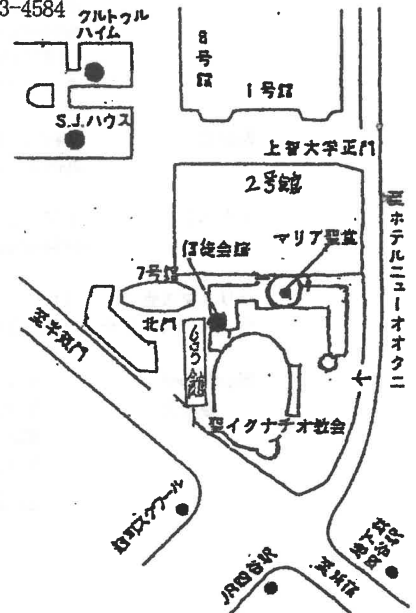
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 了 6/5 創造と救い—イエスのまねび
- 了 6/19 [倫理的行為] 善い行為の規範—人間の本性と神の意志
- 7/3 人間的行為—自由と良心
- 7/17 性格の形成—徳と感情
- 7/28 感謝のミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)
- 7/31 人間の弱さ—誘惑と罪
- 8/7 魂の癒し—恩恵・回心・ゆるし
- 8/18-26 [Kulturtulハイム2階] ●通う霊操 (18-21時) 21日は振替
- 9/4 [根本的態度] 人生を生きる基盤—信頼・信仰・希望
- 9/18 課題の中心—愛による完徳
- 9/22-24 ●黙想会
- 10/2 真理と善の実現—判断・勇気・節制
- 10/16 共同体と社会の建設—共通善・正義・愛
- 10/30 個人の道—聖霊の導きとカリスマ



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場 所 : 上智大学内クルトゥルハイム 1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接 心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神冥窟

1泊2400円程度

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時 宝塚市 ② 了

8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひとつきに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月14日休み、8月28日上智大学内クルトゥルハイム聖堂
12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

東京都千代田区麴町6-5 Tel.03-3263-4584
(JR、地下鉄四ッ谷駅から徒歩)

指導司祭プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)

1938年生まれ、1967年来日

イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授

現在、上智大学文学部哲学科教授

連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

Tel.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)

http://www.jesuits.or.jp/~i_riesenhuber/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

JR四谷駅
麴町口
至新宿 新宿通り 至半蔵門

JR・地下鉄
四ッ谷駅

聖イグナチオ教会

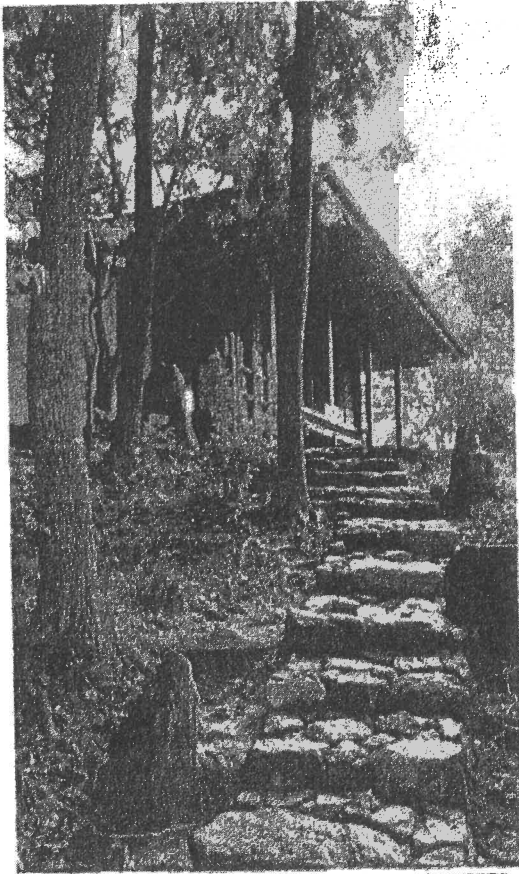
塔

↑マリア聖堂
(2階)

真命山

真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

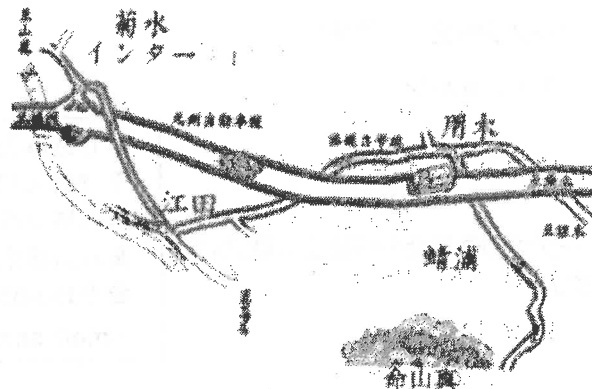
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時～午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2月 8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 了 3月 8日(木) キリストの受難と死
- 了 4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
- 了 5月10日(木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
- 了 6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 7月12日(木) " (続き)
- 9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10月11日(木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
- 11月 8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎1丁目 3-1 (Tel:077-579-7580)

◎ 交通：JR京都駅から湖西線(唐崎)下車。琵琶湖の方へ徒歩約13分

◎ 日程

A. 8日間の個人指導による黙想 (初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終了)

2007年 7月 23日(月) ~ 7月 31日(火)

8月 18日(土) ~ 8月 26日(日)

9月 1日(土) ~ 9月 9日(日)

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験 (神との親しさの中で日常を生きるために)

5月で 終了

C. 3日間の週末個人黙想 (週末に個人黙想をなさりたい方のために)

2007年 6月 29日(金) ~ 7月 1日(日)

9月 7日(金) ~ 9月 9日(日)

10月 5日(金) ~ 10月 7日(日)

10月 12日(金) ~ 10月 14日(日)

10月 19日(金) ~ 10月 21日(日)

11月 2日(金) ~ 11月 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ) 終了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせして下さい。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メソヂヤン教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年10月20日(土)

— マリー・エウジェンヌ師とテレーズ —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

* 次回の予定 11月17日(土) *

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

フォコラーレの夏のつどい

マリアポリ

今年も「マリアポリ」が自然豊かな富士山麓の山中湖畔で行われます。
「愛は癒す」をテーマに、心身ともにリフレッシュするひとときを
ご一緒に過ごしませんか？

と き：2007年7月13日(金) 19時受付 20時プログラム
～ 7月16日(月・祝) 昼食後 解散

ところ：とうしょうかん東照館 山梨県南都留郡山中湖村平野210 TEL：0555 (65) 8750

問い合わせ・申し込み：

男子フォコラーレセンター：

〒168-0071 杉並区高井戸西1-11-4 Email：mariapoli2007@gmail.com
TEL：03 (5370) 6424 FAX：03 (5370) 3055

女子フォコラーレセンター：

〒158-0094 世田谷区玉川4-20-22 Email：tokyofocfem@ybb.ne.jp
TEL：03 (3707) 4018 FAX：03 (3707) 4019

マリアポリとは：

「マリア様の町」の意味。フォコラーレ発祥の地、北イタリアで1949年に夏の休暇を利用して人々が集い、福音の相互愛を生きる日々を過ごしたのが始まりです。今では世界各地で行われている「マリアポリ」は、どなたにでもご参加いただける集いです。

①新宿から高速バスで：

新宿—山中湖 I.C.—山中湖—平野

(約 140分)

・京王予約センター：03(5376)2222

・富士急予約センター：0555(72)5111

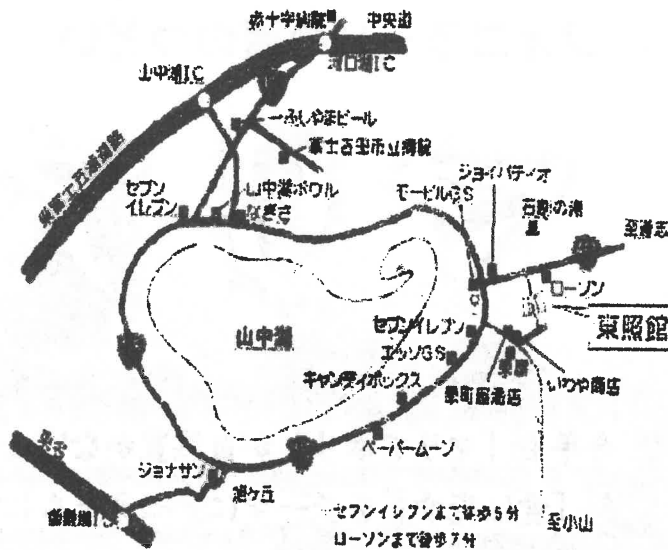
②新宿から電車で：

・新宿駅 (JR 中央線 120分) →

大月駅 (富士急行 50分) →

富士吉田駅 (バス 35分) → 平野

*バス停「平野」より徒歩5分



参加費：

大人	24,000円	学生	19,000円
小・中学生	16,000円	幼児 (3才以上)	9,500円

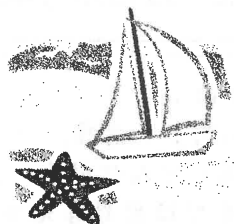
* 7月3日 (火) まで内金2000円を添え、フォコラーレセンターまでお申し込み下さい。

* 7月13日 (金) の夕食は、各自お済ませ下さい。

* 駐車場もご利用いただけます。

* プログラムの中で、希望者にはスポーツ (テニス・卓球など) のひとつも予定されています。ご希望の方は歩きやすい靴や道具などをご準備下さい。

霊性センターニュース、8月は
休刊となります。





奥村 一郎 Okumura Ichiro・カルメル会司祭
 1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中
 川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、
 カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大
 学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧
 問などを歴任。

深い信仰と豊かな霊性、
 そして透徹した知性が織り成す
 奥村神学の全貌。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者とな
 ったなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」と
 して結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の
 霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」
 は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関
 心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンツ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判上製・平均240頁

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛 (解説)西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教 (解説)ヤンヴァンリブラフト
- 第3巻 日本の神学を求めて (解説)小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教 (解説)阿部仲麻呂
- 第5巻 現代人と宗教 (解説)鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち (解説)八木誠一
- 第7巻 カルメルの霊性 (解説)高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説)高橋重幸
- 第9巻 奉献の道 (解説)宮本久雄

聖フランシスコ・ザビエルによる日本開教から四百五十年、途中数々の困難がありながらも、まかれた福音の種は今日まで生き続けています。この地の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索し続けた一人の日本人——奥村一郎。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集めたものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話におけるダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。あわせて、その柔軟な視点は二十一世紀の今、宗教対立や文化葛藤を乗り越え、寛容を求めるすべての人々への道標となることでしょう。その時と場所与えられた役割を誠実に果たし続けた著者の足跡をまとめた本選集が、日本の教会と社会で長く受け継がれる財産となることを願ってやみません。

オリエンズ宗教研究所

Okumura Ichiro

全9巻の主な内容

- | | | |
|---------------|--|------------|
| 第1巻 慈悲と隣人愛 | カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行 | 3月刊 |
| 第2巻 多文化に生きる宗教 | 大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ／アジアにおけるカトリックの現代的課題 | |
| 第3巻 日本の神学を求めて | 日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟 | |
| 第4巻 日本語とキリスト教 | 日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳 | |
| 第5巻 現代人と宗教 | 現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 | |
| 第6巻 永遠のいのち | 嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神 | |
| 第7巻 カルメルの霊性 | アピラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性 | 4月刊 |
| 第8巻 神に向かう〈祈り〉 | 考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈ることの意味 | |
| 第9巻 奉獻の道 | 清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性 | |

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Tel:03-3322-7601/Fax:03-3325-5322/jimu@oriens.or.jp http://www.oriens.or.jp

オリエンズ宗教研究所刊
奥村一郎選集 (全9巻)
 各巻定価2,100円 (本体2,000円)

第 巻 書名 冊
 第 巻 書名 冊

ご住所 〒

お電話

取扱書店

お名前

46

を購入します

配給元・日キ販

新刊紹介

◆ 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



◆ 「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊



● 「三位一体のエリザベット」

— 神は私のうちに 私は神のうちに —

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの霊性の美しさを記す。

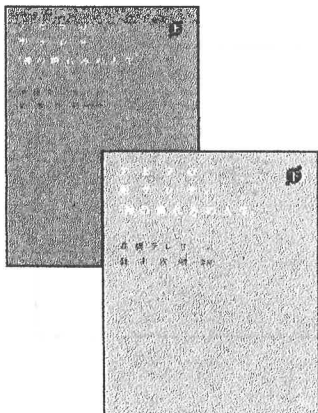
● 「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。



投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、九里^{くのり} 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

ホームページ

「霊性センターニュース」の「カルメル会の企画案内」の部分は、次のホームページでも御覧になれます。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「靈性センターニュース事務局」

「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

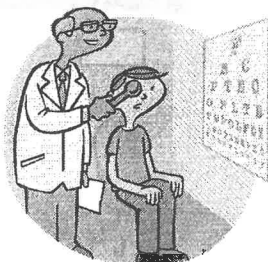
* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

すべての人は神の前に平等だが、すべての人が人間として、身体的にも精神的にも、そして靈的にも同レベルにあるわけではない。幼児と老人では、知識や能力や体験等すべてにおいて雲泥の差がある。民主主義の盲点は、80歳の老人も20歳の若者と同じ一票としてしか数えられないことにある。もちろん若者の方が時のしるしを読むという点では老人よりまさっているということもあろう。しかし、教育とか養成という人間形成の側面で見ると、同等ではないことは明らかである。ヒトラーは、当時きわめて民主的なワイマール憲法下に独裁政権を樹立した。多くの人が賛成しているからといって、正しいとは限らない。ソクラテスは多くの人々の恨みを買って、500人の陪審員によって死刑を宣告された。キリストの死も、その点、似ていなくはない。

「恥すべくんば明眼の人を恥ずべし」とは、道元禅師の言葉であるが、キリスト教においても同じであろう。ファリサイ派の人々にイエスは言った。

見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし今、「見える」とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る(ヨハ9:41)。

